

(様式4)

公共事業事後評価調書

番号	水道-2	事業担当局課	水道局計画課										
事業名	(仮) 新磯子幹線 φ1,200mm 新設工事 [(仮称) 新磯子幹線口径 1200mm 送水管新設工事 ほか]		完了年度	平成 26 年度									
施工場所	磯子区新杉田町 8 (新杉田共同溝到達立坑) ～洋光台 6 (峰配水池)		経過年数	1 年									
目的及び事業概要	<p>水道局では、昭和 61 年の雪害で横浜市南部で約 20 万戸の大断水が発生したことなどを踏まえ、自然災害時等においても安全・安心な水を安定的にお届けすることを目的として、市内を一周する全長約 70km の送配水幹線からなる「大環状線」を整備してきました。この大環状線の最後の部分として、第二磯子幹線^{※1}を整備しました。</p> <p>第二磯子幹線は、小雀浄水場と西谷浄水場の緊急時連絡管を構築するもので、新杉田共同溝から峰配水池の約 3,500m をシールド及び開削工事で布設しました。</p> <p>事業期間:平成 19～26 年度 供用開始:平成 26 年度 総事業費:約 37 億円</p> <p>※1 事前評価時は「(仮)新磯子幹線」でしたが、正式名称は「第二磯子幹線」になりました。</p>												
要因の変化 ・ 事業計画の変更の経緯等	<p>事業費や事業期間等について、大きな変更はありませんでした。</p> <p><参考>比較</p> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>H18 事前評価時点</th><th>H26 完了時点</th></tr></thead><tbody><tr><td>総事業費</td><td>約 40 億円</td><td>約 37 億円</td></tr><tr><td>事業期間</td><td>平成 19～26 年度供用開始</td><td>平成 19～26 年度供用開始</td></tr></tbody></table>					H18 事前評価時点	H26 完了時点	総事業費	約 40 億円	約 37 億円	事業期間	平成 19～26 年度供用開始	平成 19～26 年度供用開始
	H18 事前評価時点	H26 完了時点											
総事業費	約 40 億円	約 37 億円											
事業期間	平成 19～26 年度供用開始	平成 19～26 年度供用開始											
事業の効果の発現状況 (費用便益分析等)	<p>1 大環状線の完成</p> <p>平成 26 年 11 月に第二磯子幹線の整備が完了したことにより、市内を一周する全長約 70km の大環状線が完成しました。この大環状線の完成は、小雀浄水場停止時に想定される約 32 万世帯^{※2}への断水の全てを回避することに大きく貢献するなど、環状ネットワークを通じてバックアップすることで市民の皆様に安定して水をお届けすることができます。</p> <p>※2 昭和 61 年、雪害で小雀浄水場が停止したため、横浜市南部で約 20 万世帯が断水しました。当時の世帯数と平成 26 年の世帯数の比から、現在の断水世帯数を試算しました。</p> <p>2 第二磯子幹線の運用</p> <p>【通常時】</p> <p>大環状線の一部として、小雀浄水場から磯子配水池への送水管として運用しています。</p>												

	<p>【緊急時】</p> <p>事故や災害時等にバックアップするため、小雀浄水場と西谷浄水場の緊急時連絡管としての機能を持っています。</p> <p>小雀浄水場が停止した場合には、西谷浄水場から湾岸部の共同溝を経由して峰配水池等へのバックアップが可能となります。また、西谷浄水場が停止した場合には、通常の送水に加えて、西谷浄水場から給水されていた区域にバックアップが可能となり、安定給水が強化されました。</p>
対応方針	<p>計画通りに事業が完了しており、改善措置の必要性等は特にありません。今後、同種事業を進める際も、着実な事業遂行に努めます。</p>
添付資料	<p><input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p>

主要送配水幹線系統図

